

福祉委員の声 届けます

福井市社協では、平成28年10月に全福祉委員を対象に「福祉委員見守り活動アンケート」を実施し、1,627名中1,094名の方にご回答いただきました。その中で次のような声がありました。

町内の人に依頼されてもただ福祉委員になったからといって急に見守りは難しい気がする

プライベートなことに踏み込むのは抵抗がある何回も訪ねたら嫌な顔をされた

働いているから訪問はできないけど通りすがりに様子を見ている

ごみ出しの時に声かけしている

行事を通して少しずつ活動できたらいいな

「いつもありがとね」と言われると嬉しい地域の人が声をかけてくれるようになりうれしい

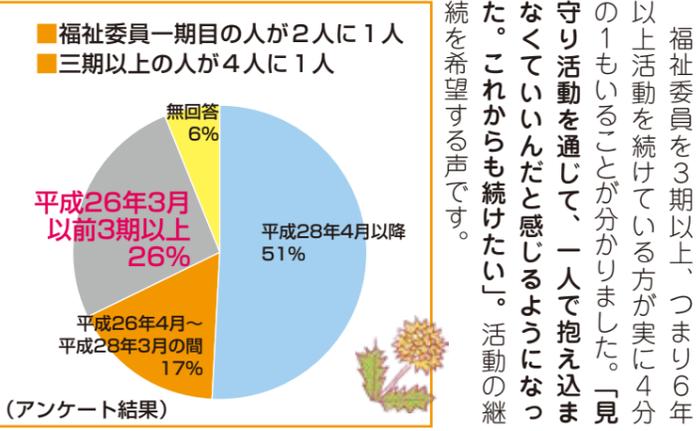
福祉委員の存在が薄い

何もしないまま2年間が終わりそう

自治会長は福祉委員活動をきちんと把握しているのか

民生委員との連携を考えたい

福祉委員になって何期目か



見守り活動の実践事例を学びたい

「活動をどのように行うのか、誰に連絡して聞けばいいのか悩む」、「マニュアル通りいかない場合どうすればいいか知りたい」。見守り活動へのサポートを希望する声です。永きにわたり、福祉委員を務められた坂井敏子さんからお話を聞きました。

坂井 敏子さん (円山地区)



活動開始から14年、福祉委員として市社協で活動されています。

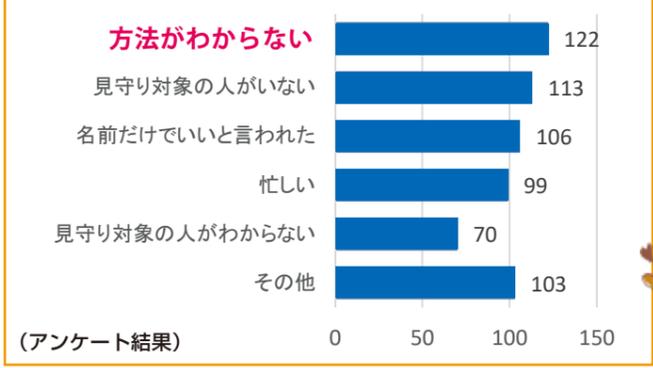
Q **すぐに活動を開始できましたが**

A 最初は、自治会型デイホームのお手伝いから始まり、お茶を出す時に高齢者の方に話かけたりしました。また、私の地区では、福祉委員が高齢者宅に小学4年生の活動報告新聞を持って行くことがあり、その際に「お元気ですか」と声をかけるようにしました。こうした活動がよいきっかけになり、最初は一言だったのが、回数を重ねるうちに会話も増えてきました。

Q **困った時は誰に相談しますか**

A 訪問するといつも顔を覗かせてくれる方が、その日は返事もなく、玄関の奥から大きな音が聞こえました。何かあったかと思い、民生委員さんに連絡し、向かいの家にも聞きに行きました。結局、その方は救急車で運ばれ大事に至りませんでした。

見守り活動を行っていない理由



■見守り活動を行っていない理由で一番多いのは、方法がわからない

「お宅を訪問する」、「出会った時に挨拶や日常会話をする」、「自治会型デイホームや配食時に話をする」など、方法はたくさんあります。しかし、地域のつながりや関心が薄くなっていく今、「見守りのやり方や声かけの仕方が分からない」という声。実際にどうすればいいのかが分からない、これが本音のようです。

見守り活動への取り組み

最初の一步を踏み出すことが難しい。これに対する地区社協連絡協議会(①)や地区社協(②～④)での取り組みを紹介します。

- ①見守り活動に関する研修会**
市内の地区社協の役員や事務局が一堂に集まり研修をしています。平成28年度のテーマは「福祉委員活動を推進していくために」。福祉委員さんが活動しやすい環境を目指して、議論が交わされました。
- ②福祉委員・民生委員合同研修会**
各地区の福祉委員と民生委員が集まり、福祉委員ハンドブックの活用や高齢者の方に話しかける模擬練習など、多様な研修をしています。
- ③地域支え合いマップ作り**
各地区の福祉委員、民生委員、保健衛生推進員、自治会長などが集まり、見守り対象者の方の住まいを印した地図を作っています。地図をもとに誰が、いつ、どこを、どうやって見守っていくかを話し合います。
- ④認知症高齢者ひとり歩き見守り活動**
実際に街に出て、ひとり歩きをしている認知症役の人に声をかけを体験する活動です。参加者からは「経験を積むことが必要」との感想がありました。

Q **辛かったこと、嬉しかったことは**

A 小学4年生の活動報告新聞を高齢者の方に届ける時に拒否される方もいます。そんな時は辛いなと思わなくもないですが、無理強いはしません。訪問することにこだわらず、畑に出ているなど外から様子を確認するようにしています。逆に、訪問して「入って、入って」と待っていてくれると嬉しく思います。

児童やひとり親家庭も見守り活動の対象

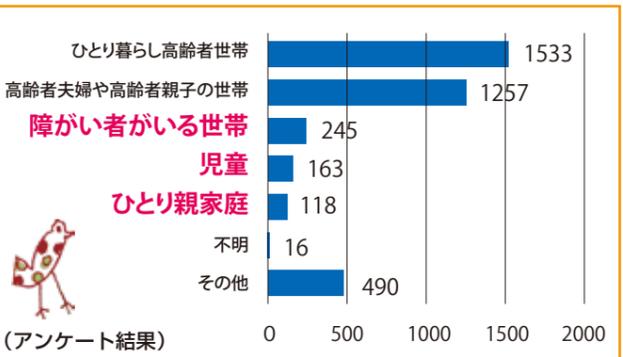
見守り活動というと高齢者を頭に思い浮かべる方も多いと思います。が、福祉委員による見守りは、高齢者に限らず、障がい者がいる世帯、児童、ひとり親家庭へと広がっていることが分かりました。

Q **子どもを見守る方法は**

A 福祉委員になったから、民生委員になったからといって特別なことはしていません。子どもが登下校す

Q **心がけていることは**

A 登下校時の声かけは、役職にとらわれず、住民の方が中心になっていきます。できる範囲で協力していこうという気持ちで地元にいるからだと思います。子どもが困っている時だけでなく普段から、できる範囲で関わっていくことが大切になると思います。



■高齢者を見守っている福祉委員が一番多い
■障がい者や児童、ひとり親への見守りも一定数いる